

広域避難者交流会 お正月準備の会 2016 in 町田 概要報告

平成 29 年 1 月

広域避難者支援連絡会 in 東京 広域避難者交流会実行委員会

東日本大震災からまもなく 6 年が経とうとしています。現在も、震災により避難生活を余儀なくされている方々は全国で約 13 万 1,000 人（復興庁：H29.1）となっており、そのうち都内に広域避難されている方々は 6,360 名（東京都：H28.12）で、東京都が最も多く避難されている都道府県となっています。

広域避難者支援連絡会 in 東京 広域避難者交流会実行委員会では、多くの避難者が一同に介し、避難者同士の交流、また避難者と支援者が交流できる場を設けて参りました。その一つとして、お正月準備の会があります。これは、もともと東北で年間行事として行っていたもので、避難されている方にふるさと感じてもらいながら、交流を深めてもらうプログラムです。

昨年に引き続き、町田市にて「お正月準備の会 2016 in 町田」を下記の通り実施しました。

日時 2016 年 12 月 26 日（月）10 時 30 分～14 時 00 分

場所 町田シバヒロ

（〒194-0021 東京都町田市中町 1 丁目 20-23）

参加者 297 名

うち、避難者 161 名、支援者 136 人

※避難者への周知は、各当事者団体を通しての呼びかけとともに東京都都内避難者支援課が実施する「定期便」等により行いました。



内容

1 開会式

(1) 実行委員 挨拶 木幡四郎（東北の絆サロン FMI 会 代表）

※なお、イベント全体の司会は、実行委員であり、避難当事者団体である、みちのくまほろば会の後藤恭子と広域避難者支援連絡会 in 東京（東京足湯プロジェクト）の金子和巨が行いました。

2 お正月準備のお餅つき

- ・今回は、約 300 人分（80kg）のもち米を用意し、前日 25 日から仕込みを開始しました。お餅つきでは、避難者と支援者が一緒に杵を振るいました。
- ・できあがったお餅は、お雑煮にして、参加者全員で頂きました。
- ・また、イベント終了時には、避難者にお正月用のお土産にお餅が配られました。

3 交流企画〇×クイズ

- ・交流企画として、東北や東京にまつわる「〇×クイズ」が行われました。勝ち残った方には景品が渡されました。

4 閉会式

実行委員 挨拶 矢内寿（福島県被災者同行会）

5 ブース出展・プログラム出演

本イベントでは当事者団体（4 団体）、支援団体・本部（4 団体）など、併せて 8 のブース出展・プログラム出演があり、食事の提供、子ども向けコーナー、健康体操、手作り品販売などさまざまな出し物がありました。

No	出展団体名	出展内容
1	広域避難者交流会実行委員会	お餅つき／お土産のお餅作り（コスモス会・足立区新田ふるさと会）／お雑煮（東雲の会）／なみえ焼きそば（東北の絆サロン FMI 会）
2	双葉町埼玉自治会	生鮮野菜の販売／手芸品販売
3	みちのくまほろば会	手作り品販売
4	東北の絆サロン FMI 会	手作り品販売
5	じゃお南多摩	たこ焼き／味こんにゃく／子どもコーナー／豚汁
6	じゃおF会	体験コーナー
7	明治安田厚生事業団	健康体操
8	金光教首都圏災害ボランティア支援機構	焼き鳥
9	本部テント	参加者受付、お土産のお餅配布／各種問合せ等

6 送迎バス

避難者の方に足を運んでもらいやすいように都内外から送迎バスを出しました。

No	ルート名	ルート
1	東雲ルート	江東区東雲住宅前 ⇔ 町田シバヒロ
2	足立ルート	足立区新田 ⇔ 町田シバヒロ
3	板橋ルート	板橋区成増団地前 ⇔ 町田シバヒロ
4	中野ルート	中野区鷺宮都営住宅前 ⇔ 町田シバヒロ
5	西東京・武蔵野ルート	田無駅 ⇔ 武蔵野市緑町アパート ⇔ 町田シバヒロ
6	埼玉県加須ルート	埼玉県加須市 ⇔ 町田シバヒロ
7	柏・松戸ルート	柏駅・松戸駅 ⇔ 町田シバヒロ

主催 広域避難者支援連絡会 in 東京 広域避難者交流会実行委員会

（実行委員メンバー）青空会、足立区新田ふるさと会、コスモス会、鷺宮都営住宅自治会、東雲の会、東北の絆 サロン FMI 会、NPO 法人とみおか子ども未来ネットワーク、福島県被災者同行会、町屋 6 丁目ミニサロン、みちのくまほろば会、むさしのスマイル、かながわ東北ふるさと・つなぐ会、双葉町埼玉自治会、広域避難者支援連絡会 in 東京

（広域避難者支援連絡会 in 東京 参加団体）荒川区社会福祉協議会、いたばし総合ボランティアセンター、金光教首都圏災害ボランティア支援機構、さわやか福祉財団、災害復興まちづくり支援機構、全労済、中央労働金庫、東京足湯プロジェクト、東京災害ボランティアネットワーク、東京都生活協同組合連合会、東京ボランティア・市民活動センター、東京労働者福祉協議会、連合東京

後援 福島県、宮城県、岩手県、東京都、町田市

協力 町田市社会福祉協議会、町田市観光コンベンション協会、じゃおクラブ

ご協力いただいた皆様

大木燃料店／桜美林大学／株式会社セレスポ／金光教町田教会／玉川大学／東京都総務局復興支援対策部都内避難者支援課／東京 YMCA／東京 YWCA／浪江町生活支援課／浪江町復興支援員／ニッポンレンタカーサービス株式会社／はちみつ会／東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）／双葉町復興支援員／ふんばろう福島プロジェクト／まちだエコライフ推進公社／木曽団地自治会／宮城県県外避難者支援員／連合東京ボランティアサポートセンター／その他 多くの個人の皆さま

※本事業はタケダ・赤い羽根 広域避難者支援プログラムの支援金を受け実施しました。

タケダ・赤い羽根

広域避難者
支援プログラム



開会式では、お正月準備の会 2016 in 町田実行委員（東北の絆サロン FMI 会 木幡四朗）から挨拶がありました。



開会式で実行委員の紹介がありました。イベント実施に向けて何度も実行委員で話し合いを行いました。



司会は当事者団体「みちのくまほろば会」の後藤恭子と広域避難者支援連絡会 in 東京の金子和巨（東京足湯プロジェクト）の2人が務めました。



お餅つきでは、避難者と地域住民の方が一緒になって楽しみました。



もち米は、福井県の方から寄付頂きました。通常のもち米より粘り気が強くおいしいお餅になりました。



参加者には、お土産用にお餅が配られました。写真は、お土産用のお餅を作っているところ。



出来上がった餅は、お雑煮にして頂きました。



東京だけでなく、埼玉や千葉からも多くの参加がありました。参加者は297人、うち避難者161人、支援者136人でした。



支援団体「じゃおクラブ」による出展がありました。写真はたこ焼きを提供している様子。



町田の地域で活動する「じゃおクラブ」からは、たこ焼きなどの食事コーナーの他、子どもコーナーの出展もして頂きました。



「金光教首都圏災害ボランティア支援機構」からは焼き鳥の提供がありました。



当事者団体による出展もありました。「東北の絆 サロン FMI 会」の浪江焼きそばは、行列ができる程の大盛況でした。



支援団体から健康体操の実施があり、楽しく参加されていました。天気が優れなかったので、体操で身体が温まりました。



「東北の絆サロン FMI 会」「みちのくまほろば会」「双葉町埼玉自治会」による物品販売ブースが設けられました。



交流企画では、景品付きの「O×クイズ」が行われました。東北や東京にちなんだクイズも出されました。



今回も都内外 7 ルートの送迎を運行しました。写真は足立区新田ふるさと会の皆さん。